

北方領土

●北方領土は日本の領土

我が国固有の領土としてロシア連邦（旧ソ連）に対して返還を要求している北方領土は、択捉（えとろふ）島、国後（くなしり）島、色丹（しこたん）島及び歯舞（はぼまい）群島の四島であり、これらの領土が日本の領土であるということは、歴史的経緯や国際法上から見ても明らかです。

しかし、ソ連（当時）は、第二次世界大戦終結後の昭和20年8月18日以降9月5日までに千島列島のみならず北方領土をも占領し、翌21年に一方的に自国の領土に編入して現在に至っています。終戦当時、北方領土には、1万7千人以上の日本人が居住していましたが、全員離島を余儀なくされました。

昭和20年12月、当時の安藤石典根室町長が連合国最高司令官に「択捉島以南の島々は、古くから日本の領土であり、これらの島々において、島民が安心して暮らせるよう措置してほしい。」と陳情したことを皮切りに、今日まで元島民を中心に粘り強く返還要求運動が進められています。



●北方領土略図



●北方領土返還要求運動のシンボルの花「千島桜」

●日露首脳会談結果

平成28年12月（15日～16日）に山口県及び東京都で日露首脳会談が開催され、その中で安倍首相とプーチン大統領は、未来志向の発想の「新しいアプローチ」に基づき、平和条約締結交渉の枠の中で北方領土において共同経済活動を行うための特別な制度に関する協議を開始するとともに、元島民等の北方領土への往来については、人道上の理由に立脚し、高齢な元島民等の参加者に考慮した改善を迅速に検討することで合意されました。

根室振興局及び北方領土対策根室地域本部では、こうした国の外交交渉を後押しするため、積極的な返還要求運動を展開するとともに、共同経済活動に関しては、日露両政府の協議状況を注視し、根室管内1市4町や各関係団体等と連携して取組みを進めていきます。

●返還に向けた啓発活動

北方領土に最も近く、返還要求運動発祥の地でもある根室では、毎年8月の北方領土返還要求運動強調月間及び2月7日の「北方領土の日」を中心とした特別啓発期間等に住民大会や署名活動などを行っているほか、年間を通じて様々な啓発活動が行われています。

北方領土の早期返還実現のためには、今後も粘り強く返還要求運動を行い、国民世論の結集を図ることが必要ですが、返還要求運動の中心的な役割を担ってきた元島民の方々の高齢化が進み、返還要求運動の後継者の育成が急務となっています。

このような中、根室振興局では、平成27年度から根室管内に残されている北方領土にゆかりのある建築物、遺構、文書図画、エピソード等や北方四島側に残されている日本建築物等について、有形・無形の北方領土関連「遺産」と位置付けて掘り起こし、「忘れてはいけない物語」として、後世に伝えることを目的に「北方領土遺産発掘・継承事業」を実施しています。

また、北方領土返還要求運動のシンボル「千島桜」マークを使った啓発活動と“ねむろ”管内の食を活かした取組みを連動させ、食を通じて広い世代に返還要求運動の訴求を図ることを目的に「千島桜ねむろプロジェクト推進事業」を実施し、各種イベントで“ねむろ”管内の農水産加工商品等のPRや署名活動等に取り組みんでいます。



●平成28年8月 署名活動（道の駅 スワン44ねむろ）



●平成28年8月 北方領土遺産発掘・継承事業「忘れてはいけない、モノがたり展」（根室振興局）

北方領土

●四島交流（ビザなし交流）、北方墓参、自由訪問

●四島交流（ビザなし交流）

北方領土への入域については、人道的見地から北方墓参だけが例外として行われてきましたが、平成3年10月に旅券、査証なしの相互訪問の枠組が設定され、翌年4月から四島交流（ビザなし交流）が開始されました。以降、平成28年度までの25年間で、延べ574回、2万1,969名が交流を行っています。

北方四島に居住するロシア人と元島民などとの間で率直に意見交換などを行うことにより、北方四島に居住するロシア人の日本に対する理解や領土問題に対する理解が深まっています。



●平成28年5月 四島交流訪問（夕食交流会／色丹島）



●平成28年6月 四島交流受入（からくりおもちゃ館視察／中標津町）

●北方墓参

北方領土への墓参は、人道的見地から昭和39年に始まり途中3度の中断がありましたが、平成28年度まで延べ39回、全52箇所すべての墓地で実施しており、延べ4,504名（遺族数3,471名）の方々が参加しています。



●平成28年8月 北方墓参1班（国後島近布内墓地）

●自由訪問

平成10年11月の日露首脳会談で、領土問題に寄与すること及び人道的見地から元島民及びその家族による北方領土への最大限に簡易化された訪問、いわゆる自由訪問を実施することについて、原則的に合意され、その後これに基づき平成11年度から、以降平成28年度までの18年間で延べ83回、183箇所を訪問しており、4,191名（元島民等数3,314名）の方々が参加しています。



●平成28年9月 自由訪問（択捉島フシココタン）